

区分：報告

内容：2021年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2021年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～地域で共に子どもを支え、よりそうための支援を考えよう～

<概要>

●目標：

- ・ 学習支援教室の活動を振り返り、子どもによりそった支援のための工夫・アイデアを共有する。
- ・ 子どもにとってよりよい環境を作るための具体的な実践事例や多様な支援者・支援機関等との連携事例から学ぶ。学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有する。
- ・ 支援者同士のつながり作り。

●日時：2022年1月20日、27日、2月3日（木）10:00-12:00 全3回

●場所：オンライン開催（Zoom使用）

●対象：横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方

●講師他：

第1回：講師：五十嵐恵美さん（豊橋市教育委員会、外国人児童生徒教育相談員）

第2回：講師：横溝 亮さん

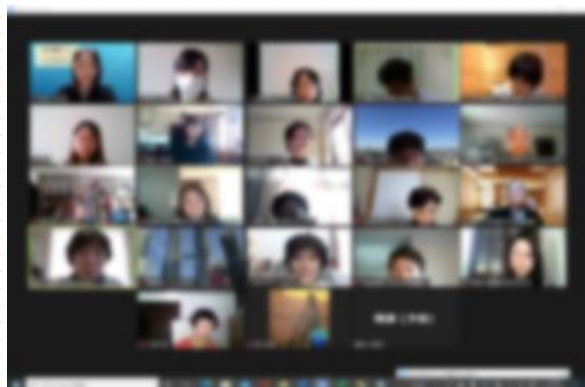
（鶴見小学校所属 日本語支援拠点施設「鶴見ひまわり」日本語支援アドバイザー）

第3回：コーディネーター：YOKE 唐木澤みどり

活動紹介：多文化共生スポットワールドキッズ（王 広子さん）

ユッカの会、あーすぷらざ外国人教育相談（水本みゆきさん）

●参加者：第1回 25名、第2回 22名、第3回 22名（延べ69名）



当初の予定では、第1回オンライン、第2回、第3回は対面開催の予定でしたが、コロナの影響を鑑み、全3回オンラインで開催しました。

第1回で行った参加者アンケートからは、学習支援経験1年未満から10年以上まで、様々な経験年数の方に受講いただきました。（第1回暴動に実施した参加者アンケートより）

第1回研修会 「外国につながる子どもへの支援の仕組みと内容① ～愛知県豊橋市の事例から～」

五十嵐恵美さん（豊橋市教育委員会、外国人児童生徒教育相談員）

昨年度からオンラインも取り入れてきましたが、今年度もオンライン開催のメリットを生かし、愛知県の豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員をしている五十嵐恵美さんに講師をお願いしました。豊橋市の事例や、リライト教材作成体験を行う中で、子どもによりそう支援を考えました。

*講師のお話

事例：小6ブラジル児童

小6	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
●ブラジルから来日	●初年支援「いきほう」導入	●日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出	●担任が日本語指導要領に基づき、日本語を学ぶ機会を創出

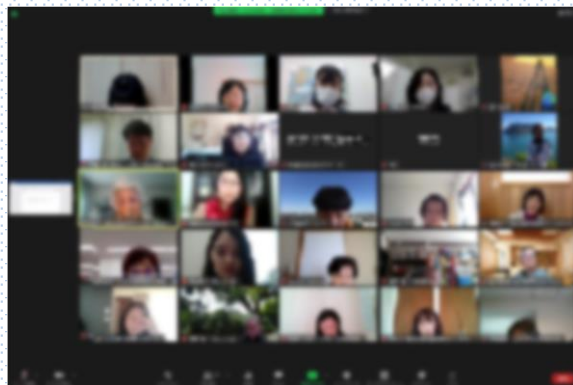
愛知県豊橋市における手厚い外国人児童生徒教育の体制や、外国人児童生徒教育相談員の仕事として取り組む具体的な日本語指導実践事例を紹介していただきました。

「いかにまわりを巻き込んで、支援の手（応援者）を増やせるか」という視点は、「地域で共に子どもを支える」という今回の研修会のサブタイトルとも重なります。

*グループワーク

後半は、やさしい日本語、リライト教材についての説明があり、グループで実際に短い文章を使ったリライト教材作成体験をしました。リライトした文章を画面共有しながら、各グループが発表しました。

日本語ができないからといって、簡単な教材を使うのではなく、子どもの認知的な力、日本語の力に合わせた支援が必要であることや、その方法の一つとしてのリライトの活用を学びました。



第2回研修会 「外国につながる子どもへの支援の仕組みと内容② ～横浜市の事例から～」

講師：横溝 亮さん（鶴見小学校所属 日本語支援拠点施設
「鶴見ひまわり」日本語支援アドバイザー）

第2回は、私たちが活動する横浜市の外国につながる児童生徒の現状や支援体制、学校で行う日本語指導等について、鶴見小学校の教員で日本語支援アドバイザーの横溝亮先生にお話を伺いました。後半では、学校と地域が連携してどのような支援ができるかをディスカッションしました。

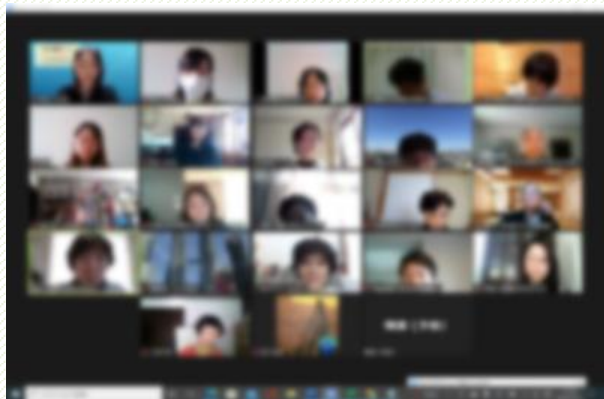
*講師のお話



最初に、「地域学習支援教室の強み」についてグループで話し合い、「子どもに長く関われる。様々な背景のボランティアが関われる」など、地域だからこその特徴が出されました。

横溝先生からは、横浜市日本語支援拠点施設ひまわりの紹介や、国際教室運営で大切にしてきたことについて、実践事例、指導の形式、世界とつながる活動など、具体的にご説明いただき、支援のヒントをたくさんいただきました。

*グループディスカッション



グループディスカッションでは、「地域と学校が連携してできる、子どもたちへの支援」について話し合い、アイデアを出し合いました。

「学校と連携できるといいと思っているが、具体的にどうできるか難しい。」という声もありましたが、

「地域と学校が情報交換できて、知り合えると、もっといい活動ができる」

「学校と地域のサポートセンターがつながれるといい。」

など、様々な意見があり、講師の横溝先生からは、「地域の思いを学校に伝えていきたい」という心強い言葉をいただきました。

第3回研修会 「みんなどうしてる? ~よりそう支援のヒントを共有しよう~」

コーディネーター：唐木澤みどり (YOKE)

まず、YOKE からの子どもの支援に関わる情報提供を行った後、市内の子ども支援の事例紹介を二人の方にお願ひしました。後半は、グループディスカッションを行い、今回の研修会のテーマである「地域で共に子どもを支えるために」私たちが協力してできることを話し合い、全体で共有しました。

*YOKE からの情報提供

・YOKE における通訳・相談、市内学習支援教室の活動状況(アンケート結果の紹介)、子ども支援事業(ヒント集等)、まちの伴走隊(無料相談)等

*横浜市内の学習支援に関する活動紹介：

1. 多文化共生スポットワールドキッズ (王 広子さん)
2. ユッカの会、あーすぶらざ外国人教育相談 (水本みゆきさん)



お二人の話から、じっくりよりそって話を聞く、子どもだけでなく親とも交流する、ボランティアも共に学び共に楽しむ、地域の人にも参加してもらうなど、子どもの声に耳を傾けながら、子どもを取り巻く人々ともつながることの大切さに改めて気づきました。

*グループ活動と全体共有

「地域で共に子どもを支えるために」私たちが協力してできること」



グループでの話し合いから、
「ボランティア同士、団体同士の横のつながりが必要」
「教育委員会、支援団体との連携が大事。」
「大学生など若い人は発想が豊かでアイデアもあり、子どもと年齢も近いので活躍してもらいたい」
「情報交換や交流できる場があるとよい」
等の意見がありました。

**参加者の声 (各回のアンケートより一部抜粋) **

- ・ 学校での初期支援の具体的な支援の様子がわかって勉強になった。
- ・ リライトのポイントを教えていただいたことや、実践が体験できたことがよかったです。(以上第1回)
- ・ 横浜市の国際教室運営、日本語支援アドバイザーの役割を知ることができた。
- ・ 講師が国際教室で大切にされてきたことを示してくださった事例は私たちの活動のヒントになることがいくつもあった。(以上第2回)
- ・ 他のグループの活動を知ること、自分たちの活動をがんばろうという気持ちになります。気持ちだけでなく、活動の参考にさせていただきます。(以上第3回)